

## 審査の結果の要旨

氏名 風間 誠

一般に、施設を建設するプロジェクトは、技術的にも、あるいは当事者の利害関係においても複雑であり、その施設の技術的性能仕様を決定するプロセスや、そのプロジェクトを遂行するにプロセスにおいて、当事者は複数の評価基準（クライテリア）をもとに意志決定を行っている。これらの複数の評価基準は必ずしも全てが明示的ではなく暗黙的なものもあり、かつ、評価基準間の優先度づけも必ずしも明示されないことも多い。

当該プロジェクトが、公共調達にかかわるプロジェクトの場合、建設される施設における公益の実現、及び実現過程における公益との適合が求められる。法令や、種々の組織のもつ諸規定類は、公益に実現・適合をうたっているがそれらは一般的な原則であり、技術的にも利害関係上も複雑なプロジェクトにおいて、意志決定の当事者が具体的に参照できるような評価基準が存在していなかった。

そのため、例えば、適用範囲が若干異なる公的技術基準への適合性が厳格に求められるがために、技術的合理性が低下し、かえって公益が低下してしまうような事例もあった。このような、硬直的運用による合理性低下を避けるために、「柔軟な運用」を当事者が行った例もあるが、それは無原則な恣意的運用を生む温床となり、倫理的な問題が介入する余地を与えてきた。特に、PFIプロジェクトは新しい公共調達方式であり、技術的にも、利害関係構成も個別的であることから、恣意性が介入する余地はより大きかった。

本論文は、このような公益の評価基準が実務上曖昧であるがために、公益が必ずしも最大化されていない現状を踏まえて、PFIプロジェクトにおいて実現される公益を増進させるため、公共工事の公益度合いを測定するツールとして「公益評価インジケータ」を開発するとともに、その有効性を検証したものである。

本論文は、公共的性格をもったプロジェクトにおける公益に関して、既往文献分析なども踏まえつつ、公益概念に関して、人間哲学、歴史的変遷、公共手続き、現行制度における諸規定など側面から考察し、本論文において用いられる公益概念を定義し、これをもとに、「公益評価基準」を階層的に作成した。

続けて、本論文では、公共工事の運用現状を分析したうえで、一般原則としての「公益評価基準」をもとに、「公共工事における公益評価基準」を整理した。さらに、PFIプロジェクトにおいて特有にする業務を、プロジェクトの分析を踏まえて抽出したうえで、これらの業務にかかわる公益評価項目を整理し、これを「公共工事における公益評価基準」に付加することにより、「PFIプロジェクトの公益評価基準」を整理した。そのうえで、これをもとにPFIプロジェクトに適用される「公益評価インジケータ」を作成している。

本論文では、作成した「公益評価インジケータ」の有効性を検証するため、いくつかのPFIプロジェクト事例を対象にして、実際に適用し、公益の差異は明確に表現できること、及び一貫性・再現性をもっていることを確かめている。

このように、本論文は、技術的意志決定と、社会経済的意志決定が交錯し、暗黙的な意志決定すらが行われてきた曖昧領域において、当事者が明示的・自覚的な意志決定を行うための手がかりをインジケータとして与えたという意義をもっている。本論文で開発された「公益評価インジケータ」がPFIプロジェクトなど公共工事において適用されていくなれば、当事者の恣意性が排除され、かつ複数の評価基準に対してもよくバランスのとれた意志決定がなされていくために有効に機能していくことが期待される。このことは、PFIプロジェクトをはじめとする公共工事における説明責任や検証可能性を高めることになり、これにより実現される公益を最大化していくことに大いに寄与していくことを意味する。このように、本論文は学術的意義と、高い社会的意義をもっている。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。